

総務の 365日

すぐにできるオフィスの地震対策

早期に復旧作業に着手し、事業継続を確保するために

BCPの中核となる防災対策。防災マニュアルの策定や安否確認システムの導入、災害備蓄品の準備など多くの検討項目があります。しかし最も大事なことは、従業員の生命と企業資産の保全です。つまり、従業員が死傷しない環境を作ることです。今回は、今すぐできる地震対策として、オフィス環境の見直しポイントをまとめました。

執筆：『月刊総務』編集長 豊田 健一

今すぐできるオフィスの地震対策ポイント

1. 通路

- ☑ 非常口に通じるメイン通路は幅120cm(推奨160cm)を確保し、メイン通路に通じるサブ通路は幅60cm(推奨90cm)を確保。
- ☑ メイン通路まで、どこからでも容易に到達できるようにし、曲がりくねった通路ではなく、できるだけ直線の通路とする。また、避難通路の両側には、転倒の可能性がある家具、割れて飛散する恐れのあるガラス家具等を置かない。
- ☑ 通路上に段ボール箱などは置かない。避難障害となり危険。

2. デスク

- ☑ 脚部はアジャスターを床固定。
- ☑ 机の足元に書類や段ボール箱は置かない。物がたくさんあると机の下に、一時避難ができないため。
- ☑ 引き出しにはラッチ機能(飛び出し防止)がついているものを使用し、重量物は下段の引き出しに入れる。上に重心が来ると転倒の可能性が高くなり危険。
- ☑ デスク上のパソコンは、ラバーシートで滑り止めを施すか、天板に固定する。そのままにしておくと、落下による怪我や避難障害となる危険性がある。

3. キャビネット

- ☑ 避難誘導灯がどこからでも見えるように配置し、あまり背の高いものは設置しない。
- ☑ 窓際に設置する場合は、窓下までの高さのものにする。高いものを設置するとガラスを突き破る可能性があり危険。
- ☑ 高さ120cmを超えるものは、単独設置はせず、左右連結をして壁面に設置。さらに壁に固定するか、床に固定。高さ120cmを超えるもので壁面設置しない場合は、キャビネットを四つ以上の固まりとして左右と背中で連結し床固定。

- ☑ 人が常時いる場所の近辺に設置する場合は、高さ120cm以下のものにし、壁面に設置するかキャビネットを四つ以上の固まりとして左右と背中で連結。
- ☑ 二段に積み重ねて使用する場合は、四隅をネジで固定するなどして上下連結。
- ☑ 落下の危険性があるので、キャビネット上には物を置かない。
- ☑ ガラスには飛散防止フィルムを貼る。
- ☑ 書類などの収容物はぎっしり入れない。詰め込むと、キャビネットと書類が一塊になって揺れるため、転倒しやすくなる。
- ☑ 下から順に重いものを収納し、上部に収納物が集中しないようにする。重心が上部に来ると転倒する可能性が高くなり危険。
- ☑ セーフティーロック機能(一つの引き出しを開けると、そのほかの引き出しは開かない構造)や、ラッチ機能(地震時、引き出しの飛び出しや扉が開くのを防ぐ構造)のついたものを利用する。
- ☑ 扉は常に閉めておき、開いた状態で放置しない。開いた状態だと、内容物が落下し怪我や避難障害の恐れがある。

4. ローパーテーション

- ☑ コの字型、T字型やH字型など、折り目を入れるように組み、倒れにくくする。
- ☑ ガラスパネルを使用する場合は、飛散防止フィルムを貼る。
- ☑ 避難通路と平行に設置する場合は、アンカーボルトで床固定する。ローパーティションが避難経路を塞ぎ、避難に支障を来す可能性があるため。

5. その他

【壁 面】

- ☑ 壁に取り付けてある絵画や時計、掲示物はしっかりと固定する。取り付ける場合は軽鉄の柱もしくはコンクリートの壁にあたるように固定。石膏ボードに取り付ける場合は、複数のネジで取り付ける。

【OA機器】

- ☑ キャスター付のOA機器はストッパーをかける。より重量の重いものは専用の固定具を使用する。固定しないと地震の揺れでOA機器がオフィスを走り回り非常に危険。



豊田 健一

『月刊総務』編集長

●早稲田大学 政治経済学部 卒業 ●株式会社リクルート入社 経理、中途採用媒体の営業、総務、販売会社の計数管理を担当 ●株式会社魚力入社 総務課長として本社移転、株式公開を経験 ●ウィズワークス株式会社入社 日本で唯一の総務専門誌「月刊総務」の編集に携わり、社内広報の研究とコンサルティングも担当 ●2012年6月より、「月刊総務」編集長、ナナ総研主任研究員に就任。



株式会社サンデザインアソシエーツ様

〈新オフィス開設の想い〉

- ① オフィスはデザイン事務所の顔
- ② お客様をお招きしてビジネスに動きを作りたい
- ③ クリエイターの創発力を高めてより優れた作品づくりを

■ エントランス・会議室



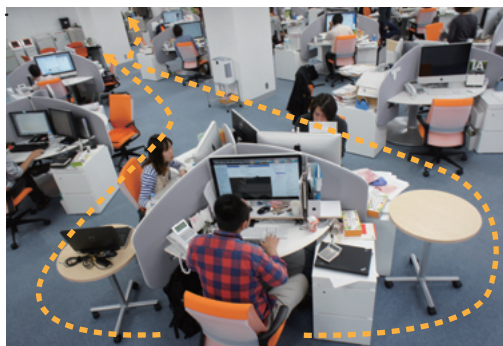
お客様の
声

クライアント様が
来社されての打ち合わせが
増え、仕事に動きが
生まれました。



モノトーンの空間に、自分たちの作品映像を流しています。間仕切りを使った来客用スペースをしっかりと確保しました。

■ オフィス



自席からプリンター、ライブラリーまでの通りでコミュニ
ケーションが生まれる仕組みにしました。角がなく丸いテー
ブルのため、四角に比べて自由に動き回れます。

お客様の
声

人が動きやすく、そして
動くことでコミュニケー
ションが増えるように
になりました。



イスは全員肘掛け付きになり、長時間座って
いてもムシない座面なので喜んでます。

デスクを広く使う、自席での
ミーティングにはキャスター付
テーブルを持ってきます。



取材にご協力くださった田井中プロ
デューサーと松尾プロデューサー(右)

お客様の
声

オフィスがキレイに
なったことで、週に一度の
お掃除タイムも自発的に
始まり、継続できています。



「Ugoku」をコンセプトにした動きが生まれるオフィスになりました

お客様情報

株式会社サンデザインアソシエーツ様

所在地：大阪市中央区

従業員数：60名

設立：1962年

事業内容：多様なデザイン領域をオールインワンで扱う総合制作会社